防災訓練の結果の概要（要素訓練）

1. 訓練の目的

本訓練は、「女川原子力発電所 原子力事業者防災業務計画 第2章 第8節」に基づき実施するものであり、あらかじめ定められた原子力災害時における応急対策または復旧対策等に関する手順の検証、習熟を行うとともに、体制、資機材の取扱いに係る実効性について検証し、改善を図ることを目的に実施したものの。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

平成28年 2月18日（木）～平成29年 3月31日（金）

（各訓練の実施日は、添付資料のとおり）

(2) 対象施設

女川原子力発電所 1、2、3号機

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

詳細は添付資料のとおり。

(2) 評価体制

定められた手順どおりに訓練が実施されているか、実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

添付資料のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 通報訓練

運転上の制限の逸脱、警戒事象、原災法第10条事象および同法第15条事象等が発生した状態を想定。

(2) 原子力災害医療訓練

放射線管理区域内で傷病者が発生した状態を想定。

(3) モニタリング訓練

停電または故障により、構内モニタリングポストが停止した状態を想定。

(4) 避難誘導訓練

緊急体制が発令された場合の原子力災害対策活動に従事しない者の避難を想定。

(5) その他必要と認められる訓練

a. 電源機能等喪失時対応訓練

全交流電源喪失、原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失等を想定。

5. 防災訓練の項目

要素訓練

6. 防災訓練の内容

(1) 通報訓練

(2) 原子力災害医療訓練

(3) モニタリング訓練

(4) 避難誘導訓練

(5) その他必要と認められる訓練

a. 電源機能等喪失時対応訓練

7. 防災訓練の結果の概要（添付資料参照）

(1) 通報訓練

社外関係個所（一部模擬）に原災法第10条事象および同法第15条事象通報を目標時間（15分）内に実施できることを確認した。

(2) 原子力災害医療訓練

放射線管理区域で、放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生したとの想定のもと、汚染測定、除染および応急処置が確実に実施できることを確認した。

(3) モニタリング訓練

目標時間（60分）内に可搬型モニタリングポストを設置し、空気吸収線量率の測定が確実に実施できることを確認した。

(4) 避難誘導訓練

緊急体制の発令に伴う一般来訪者および作業員（原子力災害対策活動に従事しない者）を想定した避難誘導訓練を実施できることを確認した。

(5) その他必要と認められる訓練

a. 電源機能等喪失時対応訓練

- (a) 全交流電源喪失、原子炉除熱機能喪失および使用済燃料プール除熱機能喪失等を踏まえた個別の緊急安全対策について、緊急時対策要員により確実に実施できることを確認した。
- (b) 訓練により発電所の機器へ直接影響が生じるものは模擬とし、現場での動作確認を実施できることを確認した。

8. 訓練の評価

各要素訓練について、定められた手順どおりに実施し、手順の有効性と対応要員の習熟を確認することができた。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

当該期間中の、各要素訓練における改善点および今後に向けた改善点は、添付資料のとおり。

以 上

〈添付資料〉 要素訓練の概要

要素訓練の概要

1. 通報訓練（訓練実施日：平成28年11月11日、参加人数：13名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
通報訓練	① 技術課長 ② 技術グループ員および特別管理職	良	特になし	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。
原子力規制庁、自治体等への通報連絡および初期対応等を行う				

2. 原子力災害医療訓練（訓練実施日：平成28年11月11日、参加人数：30名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
原子力災害医療訓練	① 総務課長 ② 総務、放射線管理、警備、発電管理の各グループ員および構内協力企業社員	良	傷病者搬送に必要な資機材の取扱いに関する習熟を図るため、自主的な定期訓練を開始した。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。
汚染を伴う負傷者への、汚染測定、除染および応急処置を実施				

3. モニタリング訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で計3回実施）、参加人数：延べ21名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
放射線管理測定訓練	① 環境・化学課長 ② 環境・化学グループ員	良	特になし	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。
可搬型モニタリングポストを用いた空気吸収線量率の測定訓練を実施				

要素訓練の概要

4. 避難誘導訓練（訓練実施日：平成29年2月14日、参加人数：105名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
避難誘導訓練				
緊急体制発令時の発電所避難者の避難誘導等を実施	① 総務課長 ② 社員および構内協力企業社員	良	特になし	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。

5. その他必要と認められる訓練

(1) 電源機能等喪失時対応訓練（訓練実施日：適宜反復訓練を実施（当該期間内で計112回実施）、参加人数：延べ951名）

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
緊急時の電源確保に係る訓練				
電源車および大容量電源装置等による電源確保の手順の実動訓練や机上訓練等を実施				
非常用ディーゼル発電機の燃料である軽油移送に係る仮設ポンプの接続作業を実施	① 電気課長、原子炉課長および 発電管理課長 ② 電気、原子炉、計測制御、共用設備、 大規模改良、保全計画、工程管理、 発電管理の各グループ員および構内協 力企業社員	良	電源車による電源確保に係る訓練について、車両識別のため、車両区画スペースに車両番号の表示を実施した。	来年度も訓練を継続し、習熟を図る。
代替注水車および大容量電源装置等への燃料補給のため、非常用ディーゼル発電設備等からの軽油抽出作業を実施				

要素訓練の概要

概要	実施体制 (①実施責任者、②実施担当者)	評価結果	当該期間中の改善点	今後の原子力災害対策に向けた改善点
<p>緊急時の最終的な除熱機能の確保に係る訓練</p> <p>代替注水車等による原子炉への代替注水等の実動訓練や、ライン構成等の一連の動作確認を現場にて実施</p> <p>送水車による原子炉等の冷却に必要な海水を供給する手順の実動訓練や、机上訓練等を実施</p> <p>海水系ポンプ駆動用電動機の使用不能時における電動機交換実動訓練および電動機洗浄訓練を実施</p> <p>海水ポンプ室等が浸水した場合の排水ポンプ設置の実動訓練を実施</p>	<p>① 電気課長、原子炉課長、タービン課長および発電管理課長</p> <p>② 電気、原子炉、タービン、発電管理、保全計画、共用設備、環境・化学、輸送・固体廃棄物管理、検査、原子燃料の各グループ員および構内協力企業社員</p>	<p>良</p>	<p>特になし</p>	<p>来年度も訓練を継続し、習熟を図る。</p>
<p>緊急時の使用済燃料プールの冷却確保に係る訓練</p> <p>代替注水車等による使用済燃料プールへの注水の実動訓練を実施</p>	<p>① タービン課長および原子燃料課長</p> <p>② タービン、原子燃料、保全計画、共用設備、環境・化学、輸送・固体廃棄物管理、検査の各グループ員および構内協力企業社員</p>	<p>良</p>	<p>資機材運搬の効率化を図るため、一回り大きく丈夫なバッグを配備した。</p>	<p>来年度も訓練を継続し、習熟を図る。</p>
<p>シビアアクシデント対策に係る訓練</p> <p>原子炉建屋のベント開放操作に係る動作確認や、模擬がれき等を用いたホイールローダの実動訓練および事務新館屋上ディーゼル発電機の起動訓練等を実施</p>	<p>① 土木課長、建築課長および発電管理課長</p> <p>② 土木、建築、発電管理の各グループ員、および構内協力企業社員</p>	<p>良</p>	<p>バックホウの操作について、要員全体の技量向上を図るため、訓練頻度を毎月実施するよう見直した。</p>	<p>来年度も訓練を継続し、習熟を図る。</p>